

観客が選手に与える心理的影響の全体像の種類

1220416 伊與田耕平

指導教員 中川善典

研究背景

伊達公子選手による「溜息事件」と9-2から東邦高校が大逆転した「大拍手事件」が過去にあった。世間では、「残酷」「可哀そう」という声が上がっていた。また、逆転された八戸学院光星高校の選手は、「俺たちがなんかしたのか」と発言していた。これらの事例は悪気のない観客が選手に対して莫大な心理的影響を与えている事例である。

研究目的

先行研究の結果から、観客による野次やブーイングが選手に精神的な負担を与えることや、声援によっても選手の卓越性の決定を破壊する存在になるということが分かっている。しかし、この研究だけでは、選手が感じている他の多くの心理的影響の種類が示されていない。試合中に選手が感じている心理的影響の種類について、深く知るために、心理的影響の全体像を明らかにする。

調査・分析方法

部活動をしている大学生、女性21名、男性23名、計44名を対象にGoogleフォームを利用したアンケート調査を行った。3つの問いに対する44人の回答者の答案120個を短い文で要約し、肯定的側面、否定的側面2つに分け、更にその中で要約した短文を28個の小ラベルとして作成した。小ラベルの中でも似たものを同じグループにまとめて9個の大ラベルを作成した。

分析結果

肯定的な側面での小ラベルは全部で17個あり、否定的な側面の小ラベルは11個あった。肯定的な側面で一番多かった小ラベルが「競技能力を強めてくれる存在」19票であった。否定的な側面で一番多かったラベルが「存在を意識してあげられない存在」9票であった。

考察・結論

時に、観客は自分自身が気づかない影響を選手に与える。実際、観客の存在は「義務感を生じさせる存在」「緊張要因としての観客」という否定的な影響を与える。この事実を理解してあげると、マイナスな影響を未然に防げる可能性がある。一方、肯定的な側面として「競技能力を強めてくれる存在」があることが分かった。観客はこの事実を知ることによって、選手に対してより肯定的な影響を与えることができるようになるだろう。